

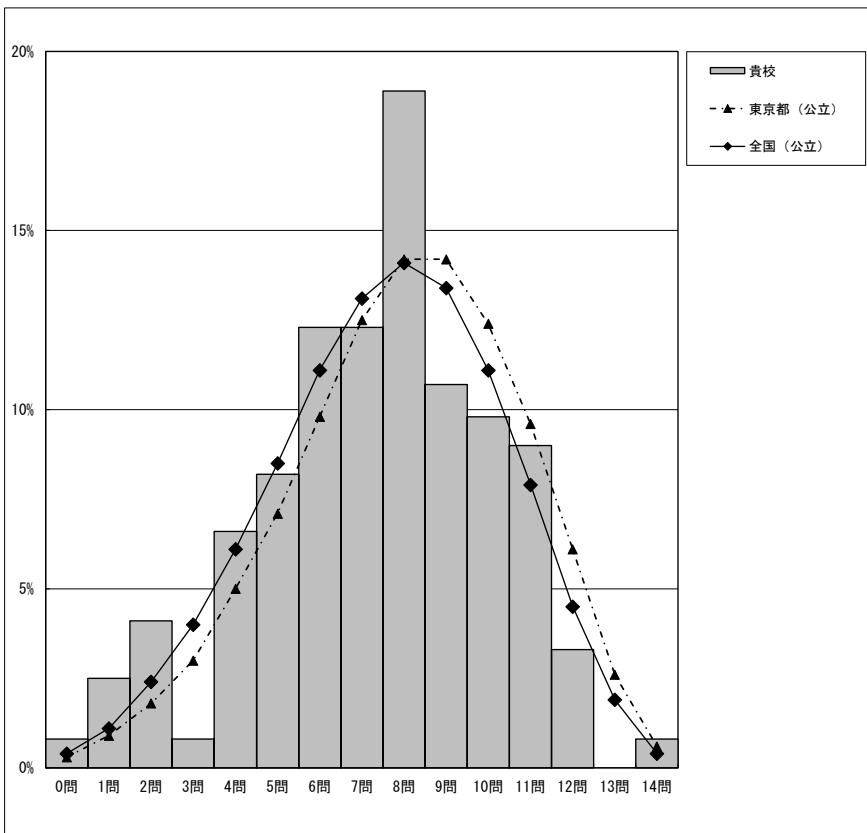
調査結果概況 [国語]

江戸川区立春江中学校

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
江戸川区立春江中学校	122	7.4 / 14	53	8.0	2.7
東京都（公立）	70,618	8.0 / 14	57	8.0	2.7
全国（公立）	870,560	7.6 / 14	54.3	8.0	2.7

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）

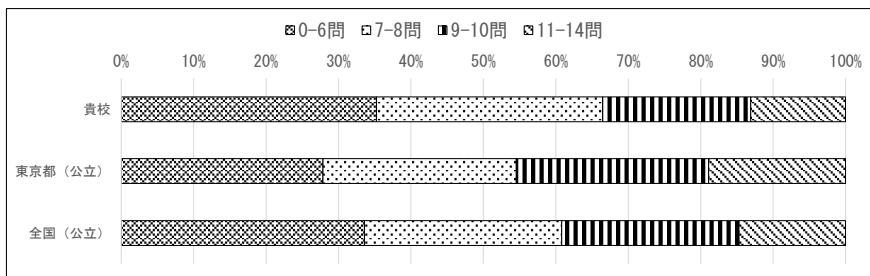


正答数	生徒数	正答数 集計値		
		貴校	東京都（公立）	全国（公立）
14問	1	0.8	0.6	0.4
13問	0	0.0	2.6	1.9
12問	4	3.3	6.1	4.5
11問	11	9.0	9.6	7.9
10問	12	9.8	12.4	11.1
9問	13	10.7	14.2	13.4
8問	23	18.9	14.2	14.1
7問	15	12.3	12.5	13.1
6問	15	12.3	9.8	11.1
5問	10	8.2	7.1	8.5
4問	8	6.6	5.0	6.1
3問	1	0.8	3.0	4.0
2問	5	4.1	1.8	2.4
1問	3	2.5	0.9	1.1
0問	1	0.8	0.3	0.4

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴校	東京都（公立）	全国（公立）
△ 第3四分位	9.0問	10.0問	10.0問
◇ 第2四分位	8.0問	8.0問	8.0問
▽ 第1四分位	6.0問	6.0問	6.0問

正答数ごとの層分布（全国四分位）



国語の調査結果を受けての考察と対

平均正答数は7.4で東京都平均(8.0)、全国平均(7.6)を下回った。しかし、正答数9～10問の層が36%と最も多く、学年全体として基礎的な読解力や記述力が身についていることがわかる。一方で、正答数6問以下の生徒が14%程度存在し、学力の二極化の兆しがみられる。また、0～2問の生徒もわずかに存在し、個別支援の必要もある。今後の対策としては、基礎的な読み取りや語句理解に課題を抱える生徒に対しては、国語科による個別指導や質問教室の実施をしていく。

また、全体的な表現力の向上を目指し、記述問題を意識した授業改善や日常的な「書く活動」の充実を図る。さらにICTやフォーサイト手帳を活用した振り返り、自己管理で生徒自らが課題に気付き学びに向かえる環境づくりを進めていく。学力の底上げとともに全体の学習意欲を高める指導を充実させる。

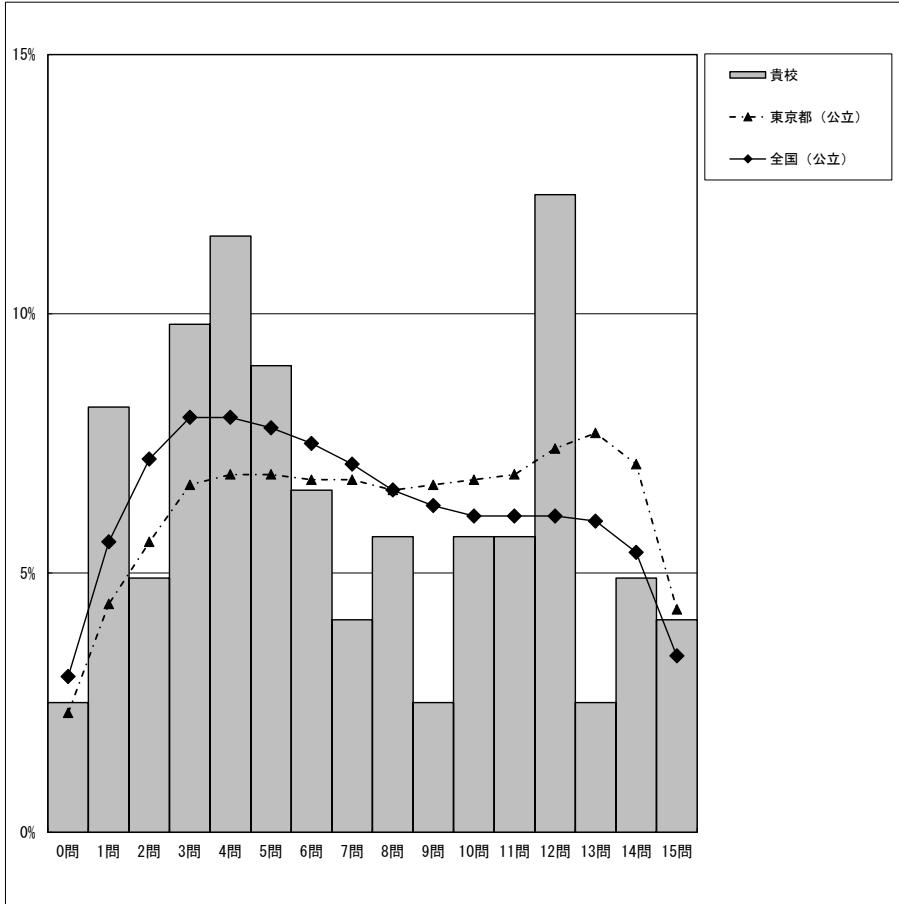
江戸川区立春江中学校

調査結果概況 [数学]

以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
江戸川区立春江中学校	122	7.0 / 15	47	6.0	4.4
東京都（公立）	70,646	8.0 / 15	53	8.0	4.3
全国（公立）	871,097	7.2 / 15	48.3	7.0	4.2

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）

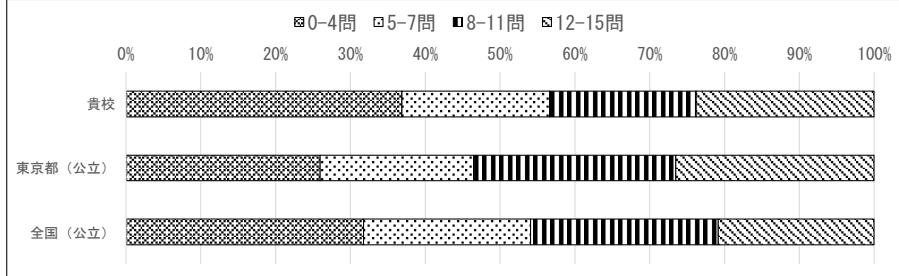


正答数	正答数 集計値			
	生徒数	割合(%)		
		貴校	東京都（公立）	全国（公立）
15問	5	4.1	4.3	3.4
14問	6	4.9	7.1	5.4
13問	3	2.5	7.7	6.0
12問	15	12.3	7.4	6.1
11問	7	5.7	6.9	6.1
10問	7	5.7	6.8	6.1
9問	3	2.5	6.7	6.3
8問	7	5.7	6.6	6.6
7問	5	4.1	6.8	7.1
6問	8	6.6	6.8	7.5
5問	11	9.0	6.9	7.8
4問	14	11.5	6.9	8.0
3問	12	9.8	6.7	8.0
2問	6	4.9	5.6	7.2
1問	10	8.2	4.4	5.6
0問	3	2.5	2.3	3.0

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴校	東京都（公立）	全国（公立）
△ 第3四分位	11.0問	12.0問	11.0問
◇ 第2四分位	6.0問	8.0問	7.0問
▽ 第1四分位	3.0問	4.0問	4.0問

正答数ごとの層分布（全国四分位）



数学の調査結果を受けての考察と対策

すべての単元の「知識・技能」に関する平均正答率において、本校は52.4%（東京都：58.3%、全国：54.4%）だった。内容は、「相対度数の計算」や「証明結果から分かること」の2つは東京都の平均正答率を上回っており、前年度からの課題が改善されていた。しかし、「素数」や「変化の割合」などの定義を基にした問題の正答率は4%程度下回っており、習熟度に応じて授業の中で定義を確認したり、掲示してすぐに確認したりできる工夫をしていく必要がある。

思考・判断・表現の観点の問題の正答率は38.9%、記述式の問題形式の正答率は40.2%で特に記述式の問題形式の正答率は全国平均を上回ることができた。昨年と比較して、生徒にとって難易度が高いと感じる問題を解答しようとする意識の向上が見られたが、他の問題に対する正答率は全国と比較して低くなってしまったため、少人数クラスの工夫改善ができると考える。

調査結果概況 [理科]

江戸川区立春江中学校

・以下の集計値／グラフは、4月14日から4月17日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

【1】 平均正答数集計値

	生徒数	平均正答数	標準偏差
江戸川区立春江中学校	124	2.5 / 6	1.4
東京都（公立）	68,954	2.9 / 6	1.4
全国（公立）	864,634	2.9 / 6	1.4

【2】～【9】 平均正答数集計値

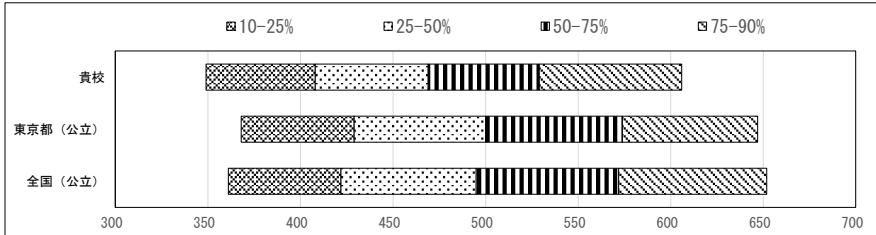
	【2】、【9】	【5】、【8】	【3】、【6】	【4】、【7】
江戸川区立春江中学校	1.9 / 4	/ 4	/ 4	/ 4
東京都（公立）	2.1 / 4	1.9 / 4	2.3 / 4	2.3 / 4
全国（公立）	2.0 / 4	1.9 / 4	2.3 / 4	2.3 / 4

「空欄」…割り当てなし

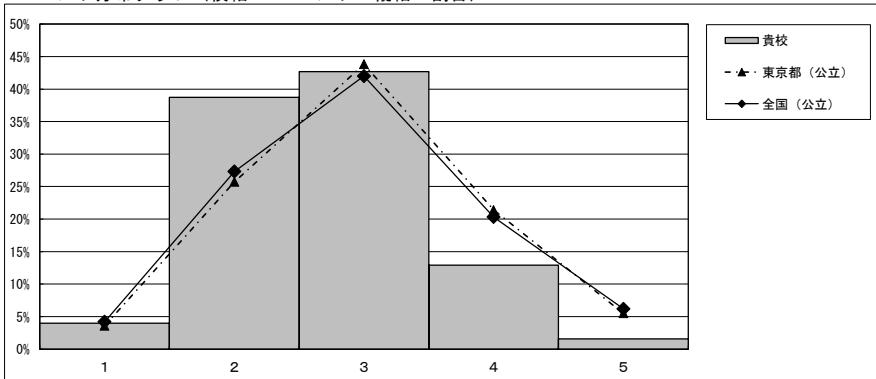
IRTスコア集計値

	平均IRTスコア	標準偏差	パーセンタイル値				
			10%	25%	50%	75%	90%
江戸川区立春江中学校	475	100.4	349	408	469	529	606
東京都（公立）	506	117.9	368	429	500	574	647
全国（公立）	503	124.0	361	422	495	572	652

IRTスコア分布グラフ（パーセンタイル値：10%, 25%, 50%, 75%, 90%）



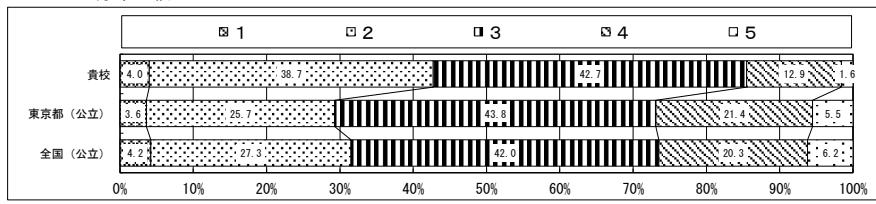
IRTバンド分布グラフ（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）



IRTバンド集計値

IRT バン ド	生徒数	割合 (%)		
		貴校	東京都 (公立)	全国 (公立)
5	2	1.6	5.5	6.2
4	16	12.9	21.4	20.3
3	53	42.7	43.8	42.0
2	48	38.7	25.7	27.3
1	5	4.0	3.6	4.2

IRTバンド分布比較



理科の調査結果を受けての考察と対策

平均正答数は全国平均を下回っている。特に「思考・判断・表現」に関する問題の正答数が全国平均に比べて低く、実験結果の考察等に課題が見られる。

また、IRTバンドからバンド4, 5の割合が低く、上位層の育成が十分ではない。今後の対策は、観察・実験を通じて得られた事象を多面的に考察させる授業の充実を図る。特に、仮説・結果・考察を言語化する活動や他者と話し合う・教え合う場を設定し、科学的思考力の育成を図る。また定期テストや単元テストを実施して、理解の定着をさせる。さらに上位層には探求的な課題に取り組ませIRTバンド4, 5の割合を増やしていく。